

# タブレット端末を活用した地域学習 ～景観まちづくり学習を通して～

Area education with Chromebook

島田 雪路\* 佐藤 友美\* 伊藤 優佑\* 江口 千穂\*  
北区立王子第二小学校\*

<要旨> フィールドワークを通して教科横断的に地域学習を行い、自分の気付いたことを相手に伝えたり、相手の考えを受容しさらに自分の考えを深めたりする中で、自分の住むまちに興味をもち、よさを知り、まちの未来を発信できる児童の育成を目指した。一人1台のタブレット端末を活用し、課題を見付け、他者と交流しながら課題解決し、地域へ発信できるようにした。また、SDGs とも関連させながら、環境教育やキャリア教育にもつなげていく。

キーワード：地域学習、フィールドワーク、SDGs 目標 11、教科横断的カリキュラム、一人1台端末

## 1. はじめに

令和 3 年度より GIGA スクール構想のもと、全児童にタブレット PC 端末が貸与された。本校では一人1台端末の Chromebook を活用し、教師からの課題提示や児童の調べ学習、反復学習、発表等に日常的に取り組んでいる。しかしながら、児童が主体的に学ぶ教科横断的なカリキュラムや学習モデルは充分とはいえない。

そこで、Chromebook の機能を存分に生かしながら、地域学習に取り組み、児童が主体的に学べる学習を積極的に推進していくこととした。



図 1：景観まちづくり概要

### 1.1 景観まちづくり学習

この事業は、国土交通省の「景観まちづくり学習」モデルプログラム\*1として、位置付けられている。プログラムは現在 11 種示されており、各教科等の学習を総合的に結び付けながら展開できる教科横断的な学習でもある。(図 1)

児童は学習を通して「気付く」→「調べる」→「考える」→「行動する」という一連の学習過程を踏まえ、身近なまちの景観を知り、観察する力や表現・発信する力を身に付けていく。

本校では、本事業のプログラム No.01「ひそんでいるぞ！カオ・かお・顔」に取り組み、中学年の児童が図画工作科の学習を中心にフィールドワークを行い、社会科・総合的な学習の時間と関連させ、教科横断的な学習として、調べたことや気付いたことをまとめ、保護者や地域に発信することで、まちを大切にすることを育成するとともに、景観まちづくりの進展につなげていくことをねらいとした。

### 1.2 SDGs との関連

本校は今年度の教育課程に「SDGs の達成に向けた教育の充実」、「環境教育やキャリア教育、防災安全教育などを推進し、見方や考え方を身に付け、行動の実践につながる授業等の工夫」を位置付けている。

第 4 学年では、総合的な学習の時間を中心に、SDGs について図書資料やインターネット等を活用し、一人1台端末として配布された Chromebook で調べたことをまとめ、プレゼンテーションを行う学習に取り組んでいる。自ら課題意識を持って学習を進めたことで、社会科「ごみのゆくえ」や「水はどこから」の学習とも関連させ、身近な生活の改善だけでなく、地球全体の環境課題にも目を向けることができた。

第 3 学年においては、SDGs の 17 の目標\*2の「11 住み続けられるまちづくり」に着目した。第 2 学年の生活科で「まちたんけん」、第 3

学年では「地域マップづくり」等を通し、学校を取り巻く地域について系統的に学習を進めている。この学びは、主体的に課題設定し解決策等を話し合い、発表や交流を通して自分たちの住むまちに興味をもったり、まちの様子を知ったりすることにつながっている。

### 1.3 学校を取り巻く地域の特徴

本校を取り巻く地域は、駅前に浮世絵にも描かれた桜の名所飛鳥山公園や名主の滝公園、石神井川などの自然や、大学やマンションなどの近代的なビルが混在している住みやすいまちである。また古くからの社寺が点在し、人々はまちを愛し「王子田楽」、「狐の行列」といった行事や伝統を大事にしながら暮らしている。

歴史的には古く、王子という地名ができたのは鎌倉時代になる。王子駅近くに日本近代産業の父と称される渋沢栄一翁の旧邸跡が現存し、日本で最初の洋紙工場を皮切りとした工業地帯として発展した。

これらの地域の特色等を生かし、地域とともにある学校づくりを推進することで、地域に興味をもち、大切に思い、未来に発信できる児童の育成をすることができると捉えている。

## 2. 授業実践の様子

地域のことを知るきっかけとして、図画工作科で、「顔」を探す活動に取り組んだ。物を見立てる活動を通して、自分や相手の感じ方を知ることが図画工作科としてのめあてとなる。この活動を通して、普段は気付かない場所や物に視点を向け、興味をもつことにつながっていく。さらに活動範囲を自分の住むまちに広げることで、自分達の住むまちについて気付かなかった場所や物に興味をもち、その作品を公共施設等に掲示することで、地域に向けて児童の思いを発信できると考えた。

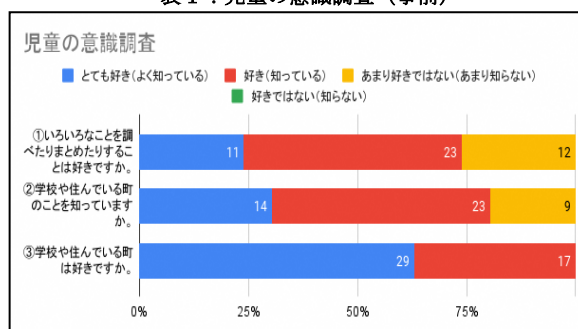
### 2.1 児童の実態

中学年児童が、学校を取り巻く地域や居住しているまちに対して、どのような意識をもっているかアンケート調査を行った。(表 1)

アンケート結果より、児童は「学校や住んでいるまちのことがとても好きまたは好き」であることが分かった。しかし、学校やまちのこと

を知っているかという問いに関しては、20%の児童が「あまりよく知らない」と回答している。家族や友達と出かける場所については知っているが、身近な地域でもよく知らないところや行ったことがない場所もあることが分かった。

表 1 : 児童の意識調査 (事前)



この学習を通して、いつもとは違う視点で自分達の住むまちを観察し、新たな気付きに結び付けられるように考えた。

### 2.2 ウイズコロナでの学習の工夫

集団生活の場である学校においては、新型コロナウイルス感染防止の観点より、児童の健康安全を守る取組が優先課題である。密にならない学習形態や児童間の意見交流・グループワーク等が制限され、小グループでの話し合い活動が困難な状況である。

授業においては、学習形態等を工夫し、コロナ禍においても安全に授業展開できるよう工夫した。特にフィールドワークにおいては、一人1台のタブレット端末を個人で使用し、情報の共有はロイロノートなどのツールを活用するなど、近い距離で長時間話し合うことなくグループワークやクラスでの考えの共有ができるように意識して取り組んだ。(図 2)



図 2 : ロイロノートの活用

また、児童が主体的に学習を進め、まちの様子等にたくさん気付くことができるよう、学習

過程を設定し、どの児童も楽しみながら顔探しを行い、まちの観察ができるように工夫した。

児童は、第 1 時で学校内での気付き・発見を十分行うことで、自信をもってフィールドワーク活動に取り組んだ。なかなか発見ができない児童も、顔探しのポイント (図 3) を踏まえ、友達からの助言を受け、主体的に活動していた。

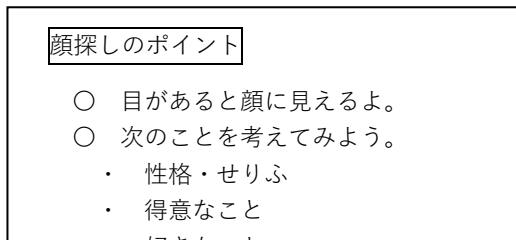


図 3 : 顔探しのポイント

さらに、教師による例示 (図 4) や「性格やせりふを考えるといいね。」「この顔はどんな性格なのかな。」等の問いかけで、児童は発想力を膨らませ、たくさんの「顔」を見つけることができた。(図 5)

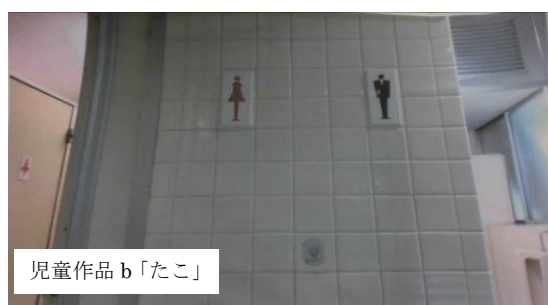


図 5 : 児童の作品

### 3. 地域とつながる・広がる学習

児童から地域に発信することで、より地域とつながり、学びが広がっていくと考える。本取組では単に作品を見てもらうのではなく、作品を通して、地域の方に新しい視点で地域のよさに気付いてもらえるように活動の工夫をした。

#### 3.1 Chromebook の活用

タブレット端末を一人 1 台持つことで、顔探しの活動の際、常に自分で考え、判断し、画像を撮ることができる。(図 6)



また画像をすぐに確認したり、必要に応じて削除したり、あとで加工したりすることができる。互いの写真を共有することも容易い。(図 7)



画像はデータとして扱うだけでなく、図 5 のように印刷して作品にすることも可能である。

課題としては、授業前の十分な確認や準備をしてもなおかつ充電がなく使えなくなる場合や、インターネットに接続ができずに共有することができないなどのリスクがある。また、情報を簡単に共有することができるので、情報の扱いにも注意が必要であり、情報を扱うためのルール作りが必須である。

### 3.2 保護者・地域への発信

学校と保護者・地域が一丸となって児童を育てていくために、学校での活動を知っていただくことは大切なことである。

昨年度より、コロナ対策として保護者や地域の方々、学校公開等で来校し、学校の取組・授業の様子等を直接参観することができない状況が続いている。開かれた学校づくりを推進するためにも、学校ホームページや各種便り、タイムリーに情報を公開し、学校の様子を知ってもらうことは大変重要であると考えている。メディア等の活用も有効な手立てであると捉えている。

本取組で作成した児童の作品は、本校の最寄り駅にある高架下を利用した作品等掲示スペース<sup>\*3</sup>に展示し、取組の様子についても周知する機会を設けることとした。(図 8)

発表の機会と場を設定することにより、地域や保護者の方に学校の活動を知ってもらうことができる。また他の学年の児童にとっては地域について興味をもったり知ったりできる機会になる。同時に、地域の新たなよさを児童から発信することができる。



図 8 : 王子カルチャーギャラリーロード

## 4. 成果と課題 (途中経過)

校内の取組の後、今後校外での取組を行う。緊急事態宣言の延長により、当初の指導計画を柔軟に変更して対応することとした。児童の変容、取組の成果等については、当日の発表にて報告する。

### 4.1 SDGs と関連させた児童の姿

本取組を通して、今後目指していくめあてと児童の姿を以下の通りにまとめた。(図 9)



図 9 : 児童の姿と SDGs の関連

今後、児童会活動や地域との交流活動等を通して、児童が主体的に考え、行動しようとする意欲を高めていく。また、SDGs に関する実践事例は教科横断的な学習モデルとして開発し、教育課程への位置付けを行う。

### 4.2 児童の行動変容 (第 1 時まで)

第 1 時の取組では友達同士、作品を鑑賞・意見交流する中で、児童は互いの感じ方の違いに気づき、そのよさを味わい、校外での顔探しの意欲に結び付けることができた。取組直後に行われた校外学習では、まちの中で楽しく顔探しをする児童の姿があった。校外での写生会においては、描く対象を見る視点を様々変えるなど、見慣れたまちのいつもの場所で、新たな視点から思考判断する姿が見られた。

児童からは「Chromebook を活用してまた作品にしたい!」「もっとみんなに見てもらいたい!」という意欲的な声も聞かれた。

\*\*\*\*\*

<sup>\*1</sup> 国土交通省「景観まちづくり教育」における 3 つの取組のうち、学校が取り組むのものが「景観まちづくり学習」である。本校は令和 3 年度、一般財団法人都市文化振興財団による学習助成事業を申請し、助成事業実施校として認定されている。

<sup>\*2</sup> SDGs の 17 の目標は「公益財団法人 日本ユニセフ協会」の HP より引用。

<sup>\*3</sup> 「王子カルチャーギャラリーロード」は、区民や区の団体等が申請・抽選により、期間を決めて利用することができる。駅に直結していることから、展示された作品等を鑑賞することができる施設である。